

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

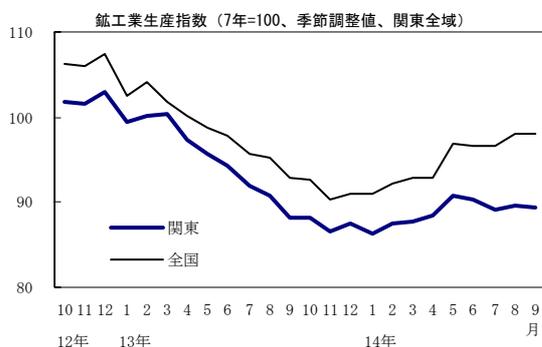
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 8 月)	今回 (平成 14 年 11 月)	
鉱工業生産	増加傾向	おおむね横ばい	↓
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	↑

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

電気機械は、デジタルカメラ、DVD向け部品や半導体、電子部品のアジア向けの外需が好調だったものの、パーソナルコンピューターの夏モデルの販売不振や4～6月期が好調であった反動などから、7～9月期は前期比で減少した。化学はIT関連に一部持ち直しの動きがみられる。一般機械は工作機械が内外需ともに弱含んでいるものの、半導体製造装置の緩やかな回復などから増加している。輸送機械は輸出を中心に好調なほか、内需でも新車投入効果がみられ、堅調に推移している。



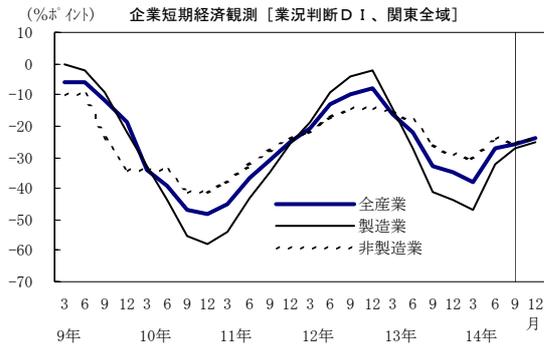
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電気機械	23.6	6.1	▲3.3	▲3.5	0.5
化学	13.2	1.3	1.8	1.0	3.5
一般機械	12.0	4.7	2.8	1.8	1.2
輸送機械	11.3	7.7	1.8	▲1.8	▲8.8
食料品・たばこ	5.8	2.2	▲3.5	▲3.8	▲0.9
鉱工業	100.0	3.1	▲0.4	▲1.3	▲1.1

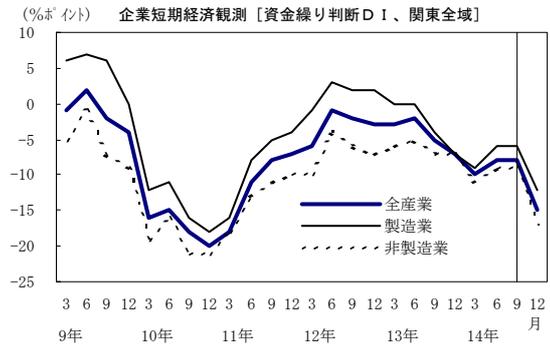
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

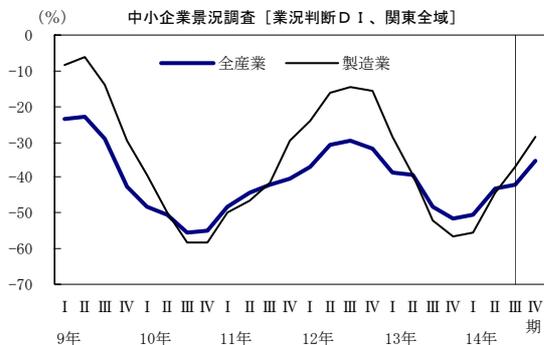
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「仕事量の減少から競争が激化し、体力が弱い会社の安値競争や仕事量確保のための安値取引により、一部の分野で値崩れが見受けられる (その他サービス業 [情報サービス])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

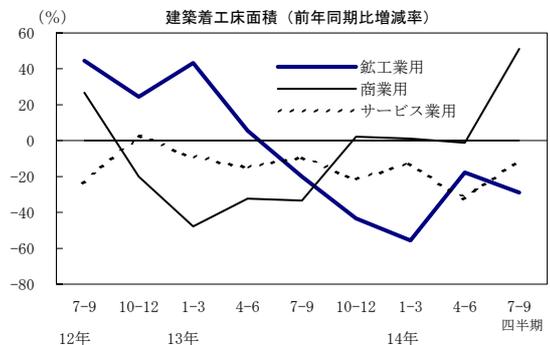
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	2.4	▲2.0 (▲2.2)
製造業	▲5.6	▲10.0 ( 1.2)
非製造業	3.4	▲1.1 (▲2.6)

(備考) ( ) は前回 (6月) 調査比修正率。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

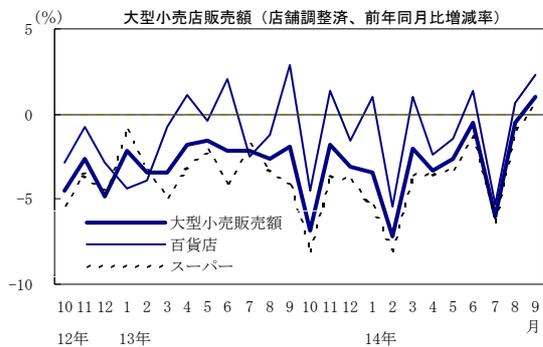
#### 大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月は曜日要因やクリアランスセールの前倒しによる反動、上旬の天候不順等から、季節衣料が伸び悩んだ。8月は季節商品に動きがみられ、婦人・子供服洋品や身の回り品が増加したことから、プラスに転じた。9月はセール等の効果に加え、秋物衣料や和・洋菓子、惣菜などの飲食料品が好調だったことから、2か月連続のプラスとなった。

スーパーは、買い控え傾向や低価格志向が続いたものの、低価格スーツなどの紳士服・洋品や健康志向食品などの飲食料品が好調だったことから、9月には0.5%前年を上回った。

#### 景気ウォッチャー調査（10月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

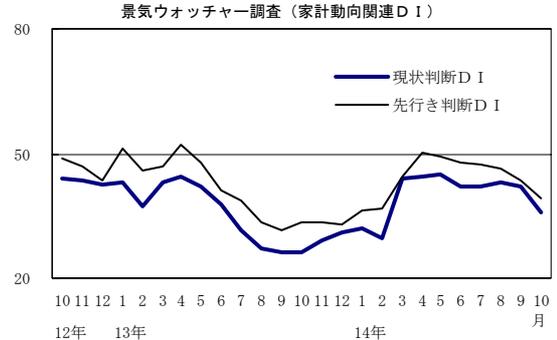
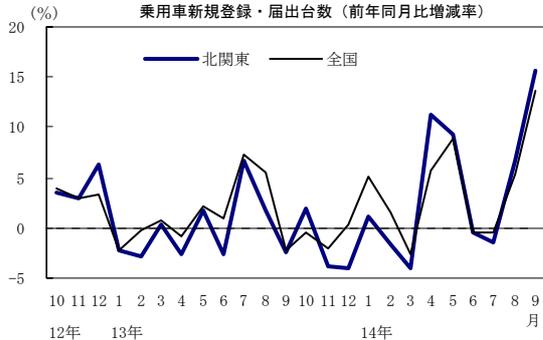
「デフレの中で、競合店との価格競争が激化している。週2回の特売イベントに加え、タイムサービス等の企画も行っているため、客単価、利益の減少は避けられない（スーパー）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲3.9	▲4.1	▲2.1	▲2.1
百貨店	▲1.6	▲0.8	▲0.8	▲1.2
スーパー	▲5.1	▲5.6	▲2.7	▲2.4
乗用車	▲2.2	▲2.1	6.1	6.8
景気ウォッチャー	28.7	35.2	43.7	42.4

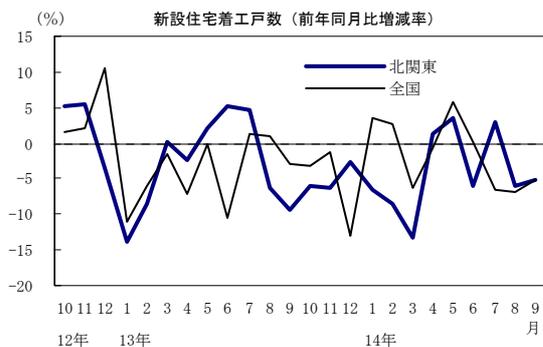
- (備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



### (2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家、分譲が下回ったことから、緩やかに減少している。

### (3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

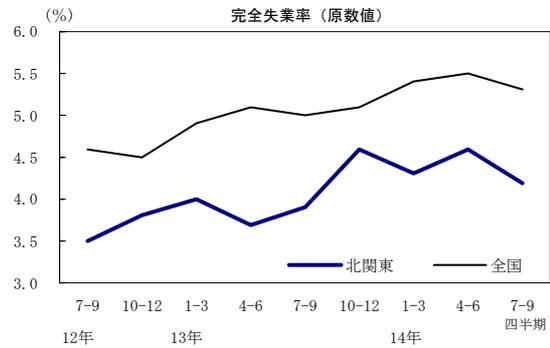
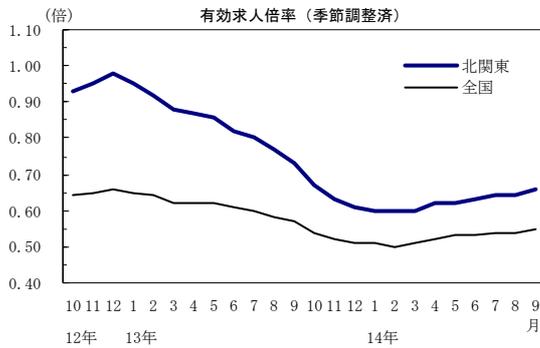


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

#### 有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ緩やかに上昇している。完全失業率は、前年同期を上回っている。



#### 景気ウォッチャー調査（10月調査）【雇用関連（現状判断）】

「求人倍率は若干上昇傾向にあり、企業の求人意欲にも改善がみられるが、時間給のフルタイム非正規従業員、パートタイムの求人が多く、求職者の希望条件とのミスマッチが拡大している（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数	299	253	249	246	100
(前年比)	18.7	5.0	▲5.0	1.7	▲8.3
負債総額	1,885	1,977	1,185	1,053	488
(前年比)	31.3	37.6	34.5	▲23.7	▲62.7



#### ○ 景気ウォッチャー調査（10月調査）【合計D I（特徴的な判断理由）】

<現状>

- ・客は料金に敏感になっており、宿泊、懇親会等の金額を返答すると断ってしまう客が増加している。やむを得ず、料金を1割強下げることになった（都市型ホテル）。

<先行き>

- ・公務員の給料が下がる影響は一般の会社員にも出て、家計は一層引き締めに向かう。景気が上向く見込みはない（一般小売店【精肉】）。

景気ウォッチャー調査（合計D I）

